田村栄　そうですね。吉野川市がすごく好きなので、コロナの影響で吉野川市の魅力を知ってもらえるイベントや機会が減っているのが残念です。

市長　本市での勤務経験がある中で、気持ち的にも変わりましたか。

田村栄　そうですね、今までも任されている仕事に対しては誠心誠意尽くしてきたんですが、正規職員という立場で働くにあたって責任が重くなったと感じています。自分の仕事に対する意識も変わりました。

市長　では、次に男性の田村さんお願いします。

田村史　田村史和と申します。昭和52年生まれの現在43歳です。皆さんと一緒で私も吉野川市出身ではなくて、阿南市出身なんです。私も結婚を機に鴨島町に住むことになりました。職場も吉野川市内でしたので、吉野川市に思い入れが深かったんです。今まで建築関係の民間企業に21年くらい勤めてきたんですけれども、今度は自分が住む吉野川市の地域の皆さんのために働いてみたいと3月の新聞を見たときに思いました。年齢もギリギリだったんで、最後のチャンスだと思って、受験しました。趣味は、オートバイをいじったり、ツーリングに行ったりすることですね。

市長　これまで建築関係にずっと携わってこられたということで、即戦力として期待しています。本市の建築営繕室で今までのキャリアを生かして地域のために貢献してくれたらと思っています。

　次は仲さんいきましょうか。

仲　仲智美です。私は石井町出身で高知県の大学に行ってから、ずっと県外で生活してたんですけど、離婚を機に3年前くらいに石井町に帰って来ました。年齢も30歳を過ぎていることもあり、就職先が全然なくて困っていたところに、募集のニュースを聞いてぜひ挑戦してみようと思いました。前職は石井町の幼稚園で働いていましたが、9月に辞めるということで、すごく迷惑を掛けてしまったんですけれども、子どもたちにも「頑張ってね」と送り出してもらいました。今週末、表現会を見に行く予定になってまして、とても楽しみにしています。

市長　面接のときにシングルマザーということを隠すことなく話してくれたことが非常に印象に残っています。話しづらいことも正直に答える姿勢、家族のために頑張っていこうとする前向きさに芯の強さを感じました。

　続いて前田さん、お願いします。

前田　前田美保です。今年40歳になりました。出身は香川県です。大学を卒業後、三重県の住宅メーカーで設計の仕事をしていました。その後、愛知県で水道事業の開閉栓関係の仕事もしました。地元香川に帰って来て官公庁で建築営繕の仕事をし、そこで2級建築士の資格とインテリアコーディネーターの資格を取りました。結婚を機に徳島に来ました。また建築の仕事がしたいと思い、今回、応募させていただきました。

市長　今は藍住町にお住まいなんですよね。

前田　はい。少し遠いなと思いながら通っています。

市長　こうして皆さんのお話を聞いておりましたら、吉野川市で生まれ育ったという方は1人もいないんですよね。皆さんそれぞれ出身地も違う中で、運命といいますか、こういうタイミングで吉野川市で働くことになった、そういうつながりを大事にしていただきたいなと思うところです。

　それでは次のテーマに移ります。市職員としての抱負を聞かせていただければと思います。前田さんからいきましょうか。

前田　私は教育委員会の教育総務課で学校の修繕を担当させていただいていますので、小、中学校の現場に足を運ぶことが多々あります。校長先生が生徒の声を吸い上げて修繕の要望をあげてくれますが、予算的に難しいこともあります。しかし、気持ち的には全部直してあげたいというような気持ちで頑張っています。

市長　予算の関係上、できることは限られていますが、話を聞いて市民の皆さんに寄り添う姿勢を常に大事にしてもらいたいなと思います。

　続いて男性の田村さんいきましょうか。

田村史　上司や先輩の窓口対応や電話対応を見習って、私も早く市民の皆さんの役に立てるように、そういうレベルまで早くいかないかんと思っています。

市長　現場監督を長い間されて対外的な経験は十二分にあると思いますので、ぜひ現場目線の姿勢を忘れず頑張っていただきたいと思います。

　それでは次は筒井さんお願いします。

筒井　まず、職員になって思ったことは、思ったよりも住民の方々との距離が近いと思いました。相談に来られた住民の方々に対しての上司や先輩の対応を見習って、私も少しでも住民の方々の声に耳を傾けてそれを対処できるようになりたいです。吉野川市役所の職員、特に今の課の方々は丁寧にいろんなことを教えてくれますし、すごく温かく接していただけるので、上司や先輩の声に応えるためにも頑張っていきたいと思っております。

市長　市町村は国や県と違って住民の方々と直接接する機会は多いです。

筒井　今までの環境とは違いますね。

市長　それでも民間企業で働いた感覚というのは忘れないでもらいたいなと思います。市役所で長い間働く中で、場合によっては視野が狭くなってしまうことがあると思うんですね。ですので、住民の目線を大事にしながらやっていってもらえたらなと思います。

　次は藤本さんいきましょうか。

藤本　皆さんがおっしゃられているように、市民の方の役に立つというのはもちろんですし、前の職場の人からも、頑張れと背中も押されとるんで、そういう思いに応えられるようにしっかりと頑張りたいと思っています。社会人としての経験値を生かして、早く職場の雰囲気にも慣れながら、仕事をしていきたいなと思います。

市長　総務課の生活安全係に配属されましたが、自治会の関係で住民の方とやりとりする場面が多いと思います。前職で農業者とやりとりしていたと思うので、そこで培ったコミュニケーション能力を発揮して頑張ってもらいたいですね。

藤本　人と話をするのは好きなので、すごくやりがいがあります。市役所に入って思ったんですけど、こんな業務もあるんやなっていうのが結構ありました。日々新しい発見があって楽しんで仕事をさせてもらっています。

市長　次は大村さんいきましょうか。

大村　私は以前、臨時職員をしていて、クラス担任以外にも特別支援教育やフリーの経験があるので、それを生かしていろいろな立場で保育している職員が子どもへの共通理解ができるようにこれから働いていきたいです。

市長　今はコロナ禍ですので、こども園では消毒や感染防止対策など、普段の業務以上にしなければならないことが多々ありますが、今までの経験を生かして頑張っていただきたいと思います。

　次に田村さんいきましょうか。

田村栄　年齢のせいにしてはいけないと思いますが、仕事内容を1回で覚えられないことがたまにあるので、もっと頑張りたいと思っています。窓口対応もある中で、もっと自分の知識も深めなければと感じました。とにかく頑張りたいというのが一番です。

市長　年齢のことは僕も言いたくはないんですけど、だんだん覚えられなくなってきますからね（笑）。

田村栄　悲しいことなんですけど（笑）。

市長　僕もスーツのポケットの中には常に書く物を備えてます。会議やイベントに出席したときに市民の方々から要望をいただくことがあるんですが、忘れないように必ずメモするようにしています。市長室の一つの引き出しはメモだらけです（笑）。

　最後に仲さんお願いします。

仲　私は総務課の人事給与係で職員の旅費の計算などの仕事をしているので、コツコツと間違わないようにということを気を付けて取り組んでいます。隣の席の方が、「市役所の仕事は市民に近いから楽しいんよ」と言ってくださって。今後総務課以外でも働くことがあると思うので、いろんな経験をしていけたらと思います。

市長　隣の同僚の方はいいことを言ってくれましたね。市民の方と直接やりとりできるというのは、時には大変なこともありますが、喜んでいただけたときのそのやりがいに勝るものはないかなと。

仲　そうですね。

市長　最後になりますが、皆さんには素直な学習者であってほしいと思います。相手の話を素直な気持ちで聞く力と、体験したことや失敗したことなどを次にどう生かすかの学習力です。僕はそういったことが実践できている人間が一番伸びると思っていますので、皆さんには素直な学習者の気持ちを忘れずに、これまでの経験を糧にして頑張っていただきたいと思います。

　それではこの辺で終わりたいと思います。本日はありがとうございました。

一同　ありがとうございました。